

北村秀行が気になる魚を解説する

# Char Mas Brain

チャーマス・ブレイン

リニューアル!

連載 第146回

## テンス属とキュウセン属

分類にいろいろ混乱があり、現在も分類が進行中のテンス属。また1属1種のキュウセン属も、分類にいろいろ混乱がある。今回はテンス属のホシテンス、クロブチテンス、ヒノマルテンス、バラヒラペラ、キュウセン属のキュウセンを紹介する。



### ●Profile

北村秀行 きたむらひでゆき

1946年9月8日生まれ。  
“チャーマス”の愛称で親しまれ、この人なくして今の日本のソルトウォーターアーフィッシングの発展はないと言っても過言ではない。魚やタックル、そして自然など、釣りに関係するありとあらゆる物事に対する豊富な知識から導き出される卓越したフィッシング理論には定評がある。クラブビッグワズ代表。tailwalk スーパーバイザー

テンス属の分類は混乱が多くあり、学者も同定や分類に苦労しているようだ。旧テンス属の *Xyrichtys* と新テンス属の *Inistius* との明白な違い、識別点は背鰭の起部の位置だ。 *Xyrichtys* では眼の後端から背鰭起部までが、眼の直径（眼径）よりも長い。 *Inistius* では眼径よりも短い（眼径の半分程度）。要するにテンス属 *Inistius* は眼の近くから背鰭が始まるのだ。

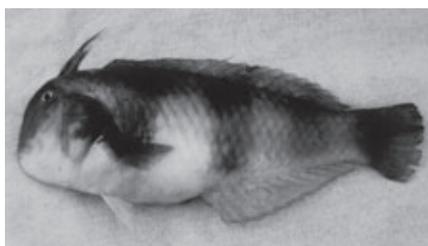
体色が黒っぽいホシテンスとクロブチテンス

●ホシテンス（星天須）、旧名クロテンス

学名: *Inistius pavo*

英名: Peacock wrasse

伊豆諸島、小笠原諸島、南日本、琉球列島、インド・太



●ホシテンス  
旧名は「クロテンス」だ

平洋沿岸の100m以浅のサンゴ礁域や岩礁域周辺の砂底域に生息する。ごく浅い場所にも進出する。

体色は灰色つぼく、体側には3〜4本の暗色横帯がある。背鰭棘中央部下方に黒色斑があり、目の下に暗い垂直に暗色帯がある。

背鰭棘9、背鰭軟条12〜13。尻鰭棘3、尻鰭軟条12〜13。

テンスによく似ているが、ホシテンスは口角から前鰓蓋にある溝がなく、第2〜3棘条間が鰭膜でつながっており、不完全に分離する。

幼魚は茶褐色。背鰭第1棘が伸長し、成長とともに短くなる。幼魚は岩礁域の藻類に擬態し、保護色でボトム近く



●クロブチテンス  
「geisha」の学名がある!

を漂っている。また、幼魚、成魚で体色全体が黒っぽい個体がいる。「クロテンス」と呼ばれ、別種とされていたが、1990年にホシテンスの黒色化個体と同一と定された。最大42cm。

●クロブチテンス（黒縁天須）

学名: *Inistius geisha*

英名: なし

和歌山県串本、琉球列島、小笠原、台湾の砂質域に生息。深いエリアに生息しているの

で、詳しい生態情報が少ない。体色は体側中央部に太く黒い帯があり、背部と腹部が黒

つぼく縁取りされている感じの帯がある。背鰭棘の第2〜3棘間は鰭膜でつながる。最大40cm。

日本の魚類学者・荒賀忠一と吉野哲夫が、1986年に沖縄諸島及び小笠原諸島沖で釣獲された新種を発見。黒と赤の太い縦縞模様で、体色が黒つぼく朱色の帯を巻いている。

芸者の黒髪と赤い唇、はにかんだ小さな口、情のある眼差しから、この魚に「*X. geisha*」という学名を付けた。



●ヒノマルテンス  
体側の中央に日の丸模様がある

現在は「*I. geisha*」に変更されている。

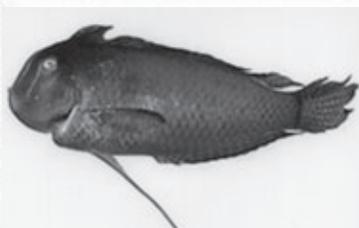
ヒノマルテンスとバラヒラペラはキレイ!

◆ヒノマルテンス（日之丸天須）

学名: *Inistius tvisiti*

英名: Redblotch razorfish

伊豆諸島、和歌山県白浜以南、沖縄諸島、台湾、インドネシアに分布。水深30m以浅の岩礁域の砂質域に生息。体側には横帯がなく、中央



●バラヒラペラ  
生態がわかっていない!

に大きく目立つ赤色斑がある。日本の国旗を連想させる模様で、他の日本産テンス属魚類との区別は容易だ。伊豆七島・新島で体長25・1cmが捕獲されている。

近年、海洋温暖化の影響でペラ科の魚、とくにテンス属の幼魚が水中観察で多く目撃されている。綺麗なでダイバーに人気がある。生態はまだよくわかっていない南方系の魚だが、神奈川県・早川沖では多くの水中目撃がある。キスの投げ釣りでも釣られている。

◆バラヒラペラ（薔薇平倍良）

学名: *Inistius verrens*

英名: なし

相模湾、高知県、台湾に分布。沿岸の潮通しのよい、きれいな砂底域に生息。

体色は赤みを帯びた、バラ色のピンクで、胸鰭先端はわずかに黒ずむ。頭部や体側には青白い模様や赤色斑が入り、オス型は鰓蓋後部に黒色斑がある。腹鰭は長く伸長し、先端は肛門をこえて臀鰭に達する。

10〜15匹前後の群れが、1

キュウセンは雌雄で色彩が異なる!

匹のオスを中心にハーレムを作る。最大長も寿命も不明。日本には、ほかに5種類のテンス属の魚が生息する。南方に生息する10〜20cmの小型種で、「何々ペラ」と名が付く種も多く混乱する。テンス属はまだまだ未解明で、分類には混乱が多くあるようだ。

船やボートでシロギスを狙っているとき大きなアタリがある。大型のシロギスカト期待するが、釣れ上がるのは体色の綺麗な「アカペラ」、「アオペラ」と呼ばれる魚だ。キュウセン属は1属1種。

◆キュウセン（九線）

学名: *parajulis*

英名: Multicolorfin rainbowfish

日本海側は北海道〜九州、太平洋側は青森県以南〜瀬戸内海、伊豆諸島、朝鮮半島、台湾、中国。東シナ海に分布。内湾の浅い、藻類の多い岩礁と砂地が入りまじる合砂場の海底に生息する。

動物食性で、甲殻類やゴカイ類などの底生動物を主に捕食する。水槽飼育下では、配合飼料もよく食する。オスで最大32cm。

雌雄で色彩が異なる。オス型は体色が青緑色で、「アオペラ」と呼ばれる。メス型は少し小型で、赤っぽい体色から「アカペラ」と呼ばれる。体側には明瞭な暗色縦帯が入り、雄型の背鰭、臀鰭、尾鰭には多数の赤色斑が入って非常にきれいだ。

雌性先熟で、アオペラはメスが性転換したオス。体長9〜15cmくらいの頃に、メスの大きい個体がオスへ性転換をする。このオスを二次オスと呼ぶ。二次オスは、複数のメスとハーレムを作り、5〜7月くらいまでに産卵体制を作り産卵する。

一方で生まれながらのオスもいて、一次オスと呼ばれる。体形、体色ではメスと区別できないため、一次オスをイニシャル・フェーズ (Initial phase)、初期段階)、二次オスをターミナル・フェーズ (Terminal phase、終末期)と呼び、頭文字で「IP」、「TP」と表記される。



●キュウセンのオス型  
夏のシロギス釣りによく釣れる。「アオペラ」と呼ばれる

●キュウセンのメス型  
関東で「アカペラ」と呼ばれる

一次オスがメスの振りをして、他のオスのハーレムで生活し、紛れて産卵行動（飛び込んで放精するストリーキング）に参加して子孫を残すという行動も報告されている。オスにもメスにも、数えるほど8本の縦縞が確認できる。メスの体側には眼を横切つて尾鰭に達する黒帯と、その上下にある赤い点条を含めて約9本の線条帯がある。そのため「キュウセン」と呼ばれ、神奈川県三崎での呼び名が標準和名になった。

重要産業魚種で、食用として人気がある。煮付け、塩焼き、新鮮なものは刺身にして美味である。関東ではあまり食べられていないが、釣れた時には食べてみよう。